立命館中学校・高等学校 2023 年度 学校目標年度末報告シート

教育目標

～新しい価値を創造し未来に貢献する人を育てる学校～（2030 チャレンジデザインより）

① 自主自立を促す教育：自ら考え、自らすすんで行動できる人（主体性／社会貢献意識）

② グローバル教育：世界を視野に、領域を超えて困難に立ち向かえる人（多様性尊重／人権意識）

③ STEAM 教育：学びを楽しみ、新しいものを生み出せる人（創造性／科学的探究）

重点目標

Ⅰ．主体的な学びを育む授業づくりと高い基礎学力と探究力の育成（立命館中高の「学びデザイン」の構築）

Ⅱ．人の思いを大切にし、人を笑顔にできる心の育成（立命館中高の「自由と清新モデル」の構築）

Ⅲ．キャリア教育・進路指導の充実（小中高大一貫教育の環境を生かして）

Ⅳ．サイエンス・STEAM 教育とグローバル教育の高度化

Ⅴ．生徒の主体性・自主性を育む学校文化の一層の推進

Ⅵ．教職員の意欲を高め、成長し続ける教員集団としての教員研修の充実と働き方改革の推進

Ⅶ．安心安全を大切にした学校運営の一層の推進

Ⅷ．地域・保護者・卒業生との連携の強化と本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進

Ⅸ．創立 120 周年（2025 年）に向けた各種施策の検討とその具体化

Ⅰ．主体的な学びを育む授業づくりと高い基礎学力と探究力の育成（立命館中高の「学びデザイン」の構築）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	ICT も活用した主体的な学びを育む授業づくり	(1)	各教科のコンピテンシーカレンダーとシラバスに基づく理解度の点検とこまめなフォロー	○
		(2)	家庭学習習慣の定着を目指す取り組みの強化（進路指導、個別面談や家庭との協力を軸に）	○
		(3)	iPad も活用した双方向性の授業づくりと学力 3 要素のバランスのとれた学びの推進	○
		(4)	授業評価アンケートの実施と授業改善（前年度からの改善）	○
2	高い基礎学力の形成と定着	(1)	中学校における英語・数学の少人数講座や TT 授業の実施と成果検証	○
		(2)	中学校における個別最適化学習（MANA ヴィレッジ、atama+）の実施と効果検証	◎
		(3)	生徒の意欲を高め、頑張りを励ます指導・評価方法の研究（新学習指導要領）	○
		(4)	高大連携科目や大学入学前講座Ⅰ・Ⅱによる附属校のメリットを活かした接続教育の実施	◎
3	探究力の育成	(1)	6 カ年での探究力育成を見据えた各学年の発達段階に応じた課題研究・探究力育成の推進	◎
		(2)	サタデーボックス（教師も生徒もワクワクする取り組み）の充実（外部講師の招聘含む）	◎
		(3)	新カリキュラムにおける教科間連携・教科授業と学年行事と教科教育の推進	◎
		(4)	学外コンクール、課題研究アワード、学会 Jr.セッションなど成果発表機会への挑戦推進	◎

Ⅱ．人の思いを大切にし、人を笑顔にできる心の育成（立命館中高の「自由と清新モデル」の構築）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	人を笑顔にできる挨拶の推進	(1)	朝の挨拶運動（率先垂範）の年間を通じた実施による挨拶の雰囲気作り	◎
		(2)	式典、全校集会、学年集会などにおける「挨拶の意義」の浸透	◎

		(3)	モデルクラブを中心とした、礼儀や挨拶面でも率先垂範となる校内リーダーの育成	◎
2	世の中をよい方向に導こうとする志（人、モノ、心を大切にする倫理感の育成）	(1)	教学理念である「平和と民主主義」の精神を理解し、国際社会の平和を希求する心の涵養	◎
		(2)	環境美化および学校備品、施設を大切に使う意識の涵養	◎
		(3)	生徒・教職員における多様性理解の推進	○
		(4)	地域交流・社会貢献活動（ボランティア等）の推進	◎
3	校内・校外における社会性の向上	(1)	通学路や駅、公共交通機関における社会的マナーの向上	△
		(2)	オープンキャンパスや文化祭などを通じた「おもてなしの心」の涵養と実践	◎
		(3)	道徳の時間等を活用した人権学習の推進	◎
		(4)	学校のルールや法を順守する意識の一層の涵養（成人年齢引き下げに伴う対応）	○

Ⅲ．キャリア教育・進路指導の充実（中高大一貫教育の環境を生かして）

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	中学生に対するキャリア教育・進路指導の充実	(1)	職業や勤労に関する学習機会の再構築（職場体験の再実施に向けて）	◎
		(2)	将来のコース選択に向けた丁寧な情報提供や個別面談の実施	◎
		(3)	立命館大学との「中大連携」による将来の進路や夢を考える機会の創出	◎
		(4)	保護者とともに取り組む子育て講演会等の実施	◎
2	高校生に対するキャリア教育・進路指導の充実	(1)	アカデミックデー、キャリアガイダンス、学部紹介ウィーク等、進路学習の機会の充実	◎
		(2)	立命館大学、APU の各学部と連携した高大連携特別講座などへの参加推奨	◎
		(3)	生徒・保護者への適切な進路情報の提供とサポート	○
		(4)	医学部を始めとする他の難関大学・海外大学進学希望者への学習指導の充実と進路実現	○

Ⅳ．サイエンス・STEAM 教育とグローバル教育の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	サイエンス・STEAM 教育の推進	(1)	22 年連続 SSH 指定獲得にもとづくサイエンス教育の一層の充実	◎
		(2)	JSSF や国際共同課題研究の推進と国内の他の SSH 校への成果普及による日本全体への貢献	◎
		(3)	立命館大学理工学部 AIOL と連携した新しい高大連携教育の推進と STEAM 先進校の視察	◎
		(4)	理系人材の育成数の拡大（特に女性の活躍モデルの提示など理系進学の支援強化）	◎
		(5)	理工学部等との連携強化による「最新型多目的ラボ（ファブラボ）」新設の検討・具体化	◎
2	グローバル教育の推進	(1)	留学の派遣ならびに積極的な留学生の受け入れの実施	◎
		(2)	RSGF を始めとした海外校との SDGs を軸とした相互交流や研修企画の拡大	◎
		(3)	特色ある海外研修、国内研修の計画と安全な実施	◎
		(4)	グローバル教育を軸とした大学・研究機関・企業との積極的な連携の推進	◎

Ⅴ．生徒の主体性・自主性を育む学校文化の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	生徒会活動を中心とする自主活動の活性化	(1)	学校行事・学年行事を軸とした各クラス・学年でのリーダーとフォロワーの育成	○
		(2)	文化祭、体育祭の企画運営を軸とした全校規模での自治活動能力の育成	◎
		(3)	学内協議会（高校）、学校懇談会（中学校）を軸とした生徒会執行部の育成と力量向上	◎
2	クラブ活動の充実と適正化	(1)	モデルクラブを中心としたクラブ活動の充実と応援し合う学校文化への貢献	○
		(2)	教員の働き方改革と連動した、持続可能かつ魅力あるクラブ活動の今後のあり方の研究	△

		(3)	クラブ活動を通じた高大連携・地域連携の推進（一部地域スポーツへの移行の検討）	△
3	中高各学年・コースの特色ある取り組みの推進	(1)	CE/SS コースにおける「自分たちでつくる」高校修学旅行の計画と実行	◎
		(2)	SSG クラス、GL コース、MS コースにおける研修旅行や特色ある取り組みの充実	◎
		(3)	中学校・高校における宿泊研修の実施を通じた集団づくり、リーダー育成	◎

Ⅵ. 教職員の意欲を高め、成長し続ける教員集団としての教員研修の充実と働き方改革の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	教員悉皆研修の充実	(1)	専門家を招聘し、いじめの防止と対策に関わる教員研修の実施	◎
		(2)	iPad やロイロノートをはじめとする ICT 活用推進に向けた教員研修の機会の充実	○
		(3)	公開授業研究会の実施による、よりよき授業研究の推進と附属校・提携校との連携推進	○
		(4)	生徒の規範意識を育む指導とそれを支える教員の意識と指導力の向上（言葉遣いも含め他者への配慮、服務ガイドラインの遵守、ハラスメント等の根絶）	○
2	個々の課題に応じた希望者研修や草の根活動の推進	(1)	ICT 技術向上などを目的とした各教員のスキルに応じたテーマ別教員研修の実施	○
		(2)	新任教諭を対象とした研修機会の充実（校務分掌研修、授業力向上、教師塾参加）	◎
		(3)	学園のグラスルーツ事業を中心とした「草の根」的な教育活動・研究活動の推進	◎
3	働き方改革の推進と生き生きと働ける持続可能な環境作り	(1)	連続勤務や長時間労働を抑制し、「働き方推進休暇」を最大限活用できる働きやすい職場環境づくりの推進	△
		(2)	教職協働や DX 化、外部委託などを通した実質的な業務削減の実現	○
		(3)	魅力ある学校・教育づくりと法を遵守した休日確保や働き方改革の両立	○
		(4)	働き方改革ワーキングによる課題の「見える化」と学園とも連携した問題解決の推進	△
		(5)	専門家による勉強会などを通した学校財政への理解と学校経営の「自分ごと化」	○

Ⅶ. 安心安全を大切にした学校運営の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	防火防災体制の強化	(1)	全校避難訓練の実施（年間 2 回の避難訓練、及び保護者対象安否確認シミュレーション）	◎
		(2)	自衛消防講習等への教員派遣による自衛消防の有資格者の計画的拡充	◎
		(3)	万一の災害時に備えた備品・飲料水・保存食などの点検と安定確保	◎
2	生徒が安心して伸び伸びと活動できる学校づくり	(1)	校舎の安全点検の実施とすみやかな修繕・対応の実施	◎
		(2)	いじめ対策委員会と学年会・生徒支援室で連携したいじめの未然防止と早期発見・解決	◎
		(3)	熱中症をはじめ各種生徒事故などの防止策の共有と発生時の敏速・適切な協力と対応	◎
		(4)	移転から 8 年が経過し、ICT を最大限活用できる各教室・実習室環境の再整備計画の構築	◎
3	小中高連携の推進と生徒支援の充実	(1)	RI2 部長会議（小中高の管理職出席）を軸とした小中高連携と長期的視点での課題解決	◎
		(2)	小中高合同研修会の実施による小中高の教員間の相互連携・理解の一層の推進	○
		(3)	生徒支援室の設置と運用による生徒支援体制の強化（心のケア、学習面）	◎

Ⅷ. 地域・保護者・卒業生との連携の強化と本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	地域連携の推進	(1)	長岡京市と連携した高Ⅰコアコースの課題研究の充実（「地域課題」探究プロジェクト）	◎
		(2)	文化・スポーツ活動などを通じた地域への貢献活動の推進（地域から愛される学校に）	○
		(3)	授業、学校行事、クラブ活動等における地域との連携の推進	◎
2		(1)	PTA と連携した「保護者に生徒の様子を見ていただく機会」の創出の工夫	◎

	保護者・卒業生・教育後援会との連携の推進	(2)	立命館清和会と連携し、卒業生に立命館中高の現在の様子を知っていただく機会の創出	◎
		(3)	保護者アンケートの実施と可能な改善策の推進	◎
		(4)	保護者に対するていねいで迅速な連絡や応対による学校に対する安心感、信頼感の向上	○
		(5)	教育後援会、卒業生父母の会との連携による生徒の活動支援の充実	◎
3	本校で学ぶ高い意欲をもった生徒募集の一層の推進	(1)	兵庫県をはじめ、新たな受験生エリア拡大を見据えた広報活動全体の強化	○
		(2)	生徒の姿が見えるオープンキャンパスや SNS やアプリも活用した本校志願者層の拡大	◎
		(3)	立命館小学校と連携した小学校保護者・児童が立命館中高の学びを知る機会の拡大	◎

IX. 創立 120 周年（2025 年）に向けた各種施策の検討とその具体化

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	120 周年記念事業実行委員会立上げ	(1)	記念事業実行委員会・実行委員長を中心とした施策の確定（2023 年度前半）。	◎
		(2)	各施策担当責任者の選定ならびに、小委員会の構築	◎
		(3)	各施策小委員会における細目の検討・具体化	○
2	教育支援事業の検討	(1)	寄付委員会の立ち上げと寄付目標額の設定（2023 年度前半）	○
		(2)	特定寄付項目（記念事業）の決定	○
		(3)	清和会、父母の会等のネットワークを活用した教育支援の検討	○
		(4)	教育支援事業を支え得る寄付政策の検討（目的別指定寄付など）	△
3	立命館大学 125 周年記念とのリンク	(1)	立命館大学 125 周年・立命館小学校 20 周年記念事業との連携	○
		(2)	連携する具体的な記念事業の検討と具体化	○

達成状況

立命館中学校・高等学校は、「新しい価値を創造し未来に貢献する人を育てる学校」をミッションとし、創立 118 年の伝統のなかで大切にされてきた「自主自立を促す教育」を尊重しながら、時代の流れに柔軟に対応し「グローバル教育」や「STEAM 教育」への取り組みも強化してきた。その上で、高い学力や豊かな素養を身に付けることに加え「挨拶を中心とした丁寧なコミュニケーションの大切さ」、「自分の利益だけではなく、他者への思いやりの心」、そして「世界の平和とすべての人々の幸せのために貢献していく志」を培っていくメッセージを始業式や全校集会などの機会を通して生徒たちに発信し続けてきた。人としての基盤がしっかりできていて、その上に豊かな個性が花開く学校になっていくことを目指した日々の取り組みの積み重ねにより、生徒たちの明るい挨拶が自然に飛び交う学校になってきている。

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類扱いとなったことに伴い、様々な学校行事やクラブ活動、国際交流などが繰り広げられ、本校らしい豊かな学びの多くを復活させることができた 1 年となった。

中学校では、合唱コンクール（中 1）や職業体験（中 2）などが、高校ではマキノ合宿（高 1）や SS/CE コース修学旅行（高 2）の海外コースがそれぞれ復活したほか、保護者にも 6 月、11 月の授業見学会や 2 日間で約 1 万人近い来場者を迎えた文化祭など、学校での子どもたちの様子を見ていただける機会を拡大することができた。また海外研修は、中高あわせて 26 ものプログラムに計 380 名が参加し、貴重な経験を積むことができた。海外からの受け入れも JSSF2023（Japan Super Science Fair）や RSGF2023（Rits Super Global Forum）に加え、海外提携校との交換プログラムの再開により、コロナ前とほぼ同水準の規模で受け入れることができた。

教育研究に関しては、文部科学省からのスーパーサイエンス・ハイスクール（SSH）指定が通算 22 年目となり、「先導的改革Ⅱ期」として、実践の高度化のみならず、全国の他の SSH 校への成果普及を期待される立場にある。2 月 6 日（火）には本校で、9 日（木）には東京で、それぞれ SSH の成果を普及することを目指して「科学教育の国際化を考えるシンポジウム」を主催した。教

育界の多くの皆さまにご参加いただき、有意義な意見交換を行うことができた。また2024年度にはSSH「科学技術人材育成重点枠」の指定も決定している。

一方、一人一人の生徒たちに目を向けると、1800人を超える思春期の真っ只中にいる生徒たちの中には、様々な支援やサポートを必要としている生徒も存在する。学習面での支援としては、２年間のMANAヴィレッジの実践を評価し、今後も継続する判断を行った。また、2020年度に開設した「生徒支援室」の仕組みを活用し、生徒支援アドバイザーによる支援プログラムに則って、本校のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、大学教員とも連携し、支援室担当教員や学年の教員でチーム会議や個別支援などを継続してきた。一人ひとりにしっかりと寄り添っていくために、生徒支援室の役割は今後ますます重要になると考えられる。

本校の卒業生の進路先として約75%が立命館大学・APUへ、約25%が他大学・海外大学へという傾向が定着してきている。自由で明るい校風や在校生の様子、特色あるサイエンス＆グローバル教育、一貫教育の魅力、多様な進路などが相まって、中学校入試、高校入試ともに多くの受験生に本校を第一志望として志願していただいている。

働き方改革に関しては、ICTの活用等により改善している部分と、新型コロナのためにこの間中止・縮小していた宿泊行事や海外研修、クラブの大会・合宿等の再開による業務量増加の両面がある。働き方改革の目的は教員の健康を維持・増進し、働きがいのある職場をつくり、結果として学校としての教育力向上につなげることである。教員の健康も守りながら、教員が気持ちよく笑顔で働ける、バランスのとれた勤務のあり方については他校での事例なども参考にしながら、引き続き総合的な検討が必要である。

2025年度に本校は創立120周年を迎える。その周年事業群を単なる歴史の通過点とするのではなく、本校へのアイデンティティを高め、教育力の向上やその発信により、本校をご支援いただく様々なネットワークを一層強化することに繋がるよう、2024年度の取り組みを計画したい。

改善策

本校の強みである「自主自立の教育」「サイエンス教育」「グローバル教育」に加え、「探究力育成」をいっそう重視し、中高ともに探究心の高まる学びに繋がる授業改革を進めたい。そのためにも国内海外の先進的な教育に学び、各教科での教育研究を推奨し、ICTも効果的に活用しつつ、魅力ある授業づくりに務める。またカリキュラム・マネジメントを駆動させ、教科の授業と課題研究（探究学習）や学校行事との往還により、自ら課題を見いだして、他者とともに協働して課題解決に主体的に取り組める力や非認知能力を育む６カ年を見通した教育プログラムの開発に努める。

また、中学校入学段階から生徒間の学力差・発達の差が大きいことを踏まえ、英語・数学の少人数講座実施による丁寧な指導に加えて、個々の学習課題に応じた個別最適化学習の試みを次年度も推進する。あわせて「生徒面談週間」など一人一人の生徒に寄り添う丁寧なサポートを継続する。立命館小学校との連携・協力も強化し、児童や保護者が中高のことを知る機会を増やし、その児童にとって最適な進路指導に繋げていく。中高ともにカリキュラムに関しては評価法の検討、中高大院連携の一層の推進などに取り組む。

働き方改革に関しては、何より教員自身が生き生きと笑顔で子どもたちに接し、持続可能な楽しい教育展開をすることが一番重要であることを共通認識として、各教員の知恵を集め、学園とも連携して、よりよいシステムづくりを検討していく必要がある。

学校関係者評価に関する事項

委員会構成	＜学校評議員＞ 片桐 昌直（大阪教育大学 理事・副学長 ） 帯野 久美子（株式会社インターアクト・ジャパン代表取締役） 武田 浄（株式会社日本電産人事部付部長・京都先端科学大学国際オフィス部長） 千 宗史（茶道裏千家 若宗匠） 駒井 潤（片山家能楽・京舞保存財団事務局長） 木曽 裕（弁護士法人 北浜法律事務所）

	山出 洋基（サントリー酒類株式会社 大阪支社第 2 支店営業担当部長、高校女子ホッケー部クラブ指導員） 島田 和幸（京都府 府民環境部 地球温暖化対策課 課長 ） 孝忠 大輔（日本電気株式会社 AI・アナリティクス事業部 AI 人材育成センター長、NEC アカデミーfor AI 学長 ） ＜委員＞ 東谷 保裕（立命館中学校 ・高等学校 校長）、伊坂 忠夫（学校法人立命館 副総長） 久野 信之（学校法人立命館 常務理事（一貫教育担当）） 藤原大門（卒業生父母の会会長）、足立 五郎（PTA 会長）、藤本 麻里子（PTA 副会長）、三宅 尚嗣（PTA 副会長） ＜オブザーバー＞ 横澤 広久（学校法人立命館 一貫教育部部長）、久保田 一暁（立命館中学校・高等学校 副校長） 白井 有紀（立命館中学校・高等学校 副校長）
開催日程 主な議題	第 1 回　2023 年 6 月 23 日（金）　2023 年度 立命館中学校・高等学校の目標等 第 2 回　2024 年 3 月 11 日（月）　2023 年度 立命館中学校・高等学校の自己評価等
評価・改善事項	・サタデーボックスの取り組みは、その成果をまとめて地域の方に発表する機会を設けてもよいのではないか。 ・アントレプレナー教育のニーズを受けて、立命館大学や乙訓地区にある拠点と連携を模索してはどうか。 ・教員の働き方改革を進めるためには外部人材の力をどう活用するかが鍵ではないか。特に４万人余の卒業生の会（立命館清和会）の力をもっと活用してはどうか。 ・あいさつの指導は大切だが、加えてその「心」の指導がより重要。卒業生が交通指導員さんにお礼の手紙を渡したという話も聞き、そのような「心」が育っていることを嬉しく思う。「心」の指導を今後も大切にしてほしい。 ・ICT が進めば進むほど、学校では「心の教育」が大切になってくるのではないか。そのためにも生徒同士の交流の機会などをうまく工夫・実践してほしい。 ・能など日本の伝統文化の維持発展に向けて、モーションキャプチャー等を用いた理工学部との連携による文理融合の取り組みも行われている。一見関連の少ないと思われる異分野の融合により面白いものが生まれることも多い。 ・多様な取り組みを展開していることは高く評価できるが、生徒から見ると選択肢が多すぎて選択に困ったりすることはないかは心配である。「主体性」を大切にする教育は「放任」とは異なる。そのバランスが難しい。 ・社会的には学校現場で様々なトラブルが報告されている。今後、学校の対応が社会的・法的に適切かどうかを判断する上で、弁護士などの専門人材と連携する必要があるのではないか。